

学校を飛び出して、
地元で活躍するオトナを取材しよう！

おもてなしの 心をもつて

neshian 山のアトリエ
本田ゆみさん



池田山の麓で、無農薬野菜を中心としたベトナム料理を提供している「neshian 山のアトリエ」のオーナー本田ゆみさんに取材させていただきました。

Q neshian とは？お店の名前の由来と、特徴を教えてください。

neshianは造語です。

ポリネシアン・インドネシアンなどという言葉があるように、島々に住む人々の下の文字「ネシアン」という響きがとても柔らかく温かく気に入りました。

この島国で、この素材豊かなこの環境で、四季折々の素材を使ったお料理を作りたい。ここで私が作った料理をゆつたりとした空間で食べてほしいということで、「ネシアン」という名前をつけました。

neshianはベトナム料理のコース料理を週一回木曜日の営業で提供しています。週末はケータリングとお料理教室など活動しています。

Q 無農薬野菜にこだわろうと決めたいきっかけは何ですか？

子供が生まれる前からオーガニックに興味があったんです。当時は、オーガニックっていうと、マイナーで、高くていいものを食べるみたいな…。お手頃なオーガニックではなくてちよつと格式があるようなところがあつたんです。

社会に出て頑張っていた時に体調を崩してしまって、原因を調べていくうちに、胃腸がもつて病気になるやすいことがわかつたんです。そこで、腸からきれいになりたいなと思ひました。オーガニック食材を食べることで、自分自身がきれいになるような実感がありました。

も代えがたく、それがすぐ魅力的でむしろコミュニケーションの難しさを楽しんでいました。

Q コロナ禍で大変だったことはありましたか？

『山のアトリエ』は週一回の営業なのでお客さんが減ることはなかつたのですが、消毒作業がとても大変でした。

neshianの売り上げを支えているのは、ケータリングなのですが、ケータリングは大ダメージでした。今は少人数向けのケータリングを再開しています。

違う戦略を考えていかないといけないので、最近YouTube上でレシピを提供しています。また、neshianの料理を真空パックに入れて全国の人に届ける新しいプロジェクトも計画しています。

Q 進路選択のアドバイスをお願いします。

好きなことを仕事にすると辛いこともすく頑張れます。

今は、簡単にスマホで情報が入つてしまつ世の中で、いろんな情報を知つた気持ちになつてしまひます。情報を知つていたとしてもぜひ、自分から一歩チャレンジしてください。

私は、大学に進学しましたが、ホテル業に就きたいという夢が諦めきれず、もう一度、専門学校に進学し、学び直しました。夢であつたホテルに就職して、レストラン部門で働いたことがきっかけで、料理の奥深さに魅了されました。

夢は少しずつ変化しましたが、料理にまつわるソフトの部分に寄り添えるというのがホスピタリティー。おもてなしの心かなと思ひます。だから、私はホテル業を経験して料理の道に行つたことが、今では接客の

アジアを旅した時に化学調味料（アミノ酸など）が多く使われていることに衝撃を受けました。それで、化学調味料を使わずにおいしい料理ができないか、素材の味を引き出すことができなかつたか考えた時に、素材本来のおいしさを追求したくなりました。

自分たちで料理で使用する野菜を一部育てています。お客様にできる限り無農薬でおいしい野菜を知つてもらいたいという思いで使用しています。



Q なぜベトナム料理を提供しようと思つたのですか？

元々、料理の道に進みたいと思つていました。

まず、自分がどのような料理を提供したいのかなと考えました。リュック一つでヨーロッパを回つた時に、フランスでベトナム料理に出会いました。ベトナムはフランス領だったので、フランスにはたくさんベトナム料理がありました。

自信になつています。

みんなもチャレンジをたくさんして、いっぱい失敗して、経験してほしいなと思ひます。



【感想】

本田さんの取材を通して本田さんのneshianに対してのこだわりを直接聞けて良かったです。自分のこだわりを貫きながら、挑戦していくことは、大変なことだと思ひます。けれども、失敗を恐れない姿勢や、本当に自分がやりたいこと見つけようとする行動力を尊敬したいなと思ひました。私は今、自分が将来、やつてみたいことがあります。また、具体的に踏み出せていません。自分の心に正直になり挑戦していきたいという気持ちが湧いてきました。その道は、失敗ばかりかもしれない。挑戦したことは、振り返つたときに必ず自分にとって生きていくと思ひます。自分のやりたいと思つたことは、達成できるように達成できる最適な方法を考え抜いて一生懸命やりくりしたいと思ひます。

【取材・記事】 一年 谷口和枝

Q 旅行したとき、言語の壁はどのように乗り越ええましたか？

言葉の壁は高かつたですよ。もともとホテルに勤めていたので、ある程度の「食べたい」「泊まりたい」「何円だ」という簡単な英語は話せました。今なら携帯とかで自動通訳とかできるけれど、当時はそれがなかつたので、本を片手に持つていましたね。

皆さんはユースホテルつて知つていますか？ そこには日本人も含めて、世界中の人々が集まつています。

そこで「ここがいいよ」とか「こういふ風に言うといいよ」ということを教えてもらいながら現地の言葉で身につけてました。環境つて強いもので、そこにいるとなんとか会話が聞けるんですよ。聞けるようになったり片言だけど話せるようになったりする。それでコミュニケーションがとれる。

コミュニケーションがとれる喜びつていうのは、何に

